

## 単元名 表を使って考えよう(2)

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 表を使って変化する2つの数量の和や差を調べることができる。  
 (2) 表を使って変化する2つの数量の和や差の規則性を考え、問題を解決することができる。  
 (3) 表を使うことのよさに気づき、進んで表を使って変わり方を調べようとしたり、変わり方のきまりを見いだそうとしたりする。

## 標準的な展開例

06040209\_001

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 2つの数量を順に変化させ、その和の変化に注目して問題を解決する。[p.178]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 表にかいて、問題を整理して考えよう。</li> <li>○ 「みんなで考える問題」に取り組む。</li> <li>○ 120円のノートの冊数を0, 1, 2, …, 100円のノートの冊数は50, 49, 48, …と変化させ、そのときの売上金の変わり方に注目して問題を解決する。</li> </ul> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>2 2つの量を適当な数値から順に変化させ、その差の変化に着目して問題を解決する。[p.179]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 表にかいて、変わり方のきまりをみつけよう。</li> <li>○ 「みんなで考える問題」に取り組む。</li> <li>○ りんごとみかんを半分(20個)ずつ買ったとして、それから1個ずつ変えていった時の代金の差の変わり方に注目して問題を解決する。</li> <li>○ 「練習問題」に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表だけでは理解できない児童には、変化の様子を絵や図に表させ、問題の関係や表の意味が理解できるように工夫する。</li> <li>・ きまりを見付けることにより、表を途中まで作るだけで、答えが求められるよさを感じさせる。</li> </ul> <p>【評】2つの量について、変化の様子を的確に捉え、きまりを見付ける活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 結果の見通しをもつことによって、表を作る労力が省けることに気付かせ、どの数値から始めればよいかについて考えさせる。</li> </ul> <p>【評】2つの量について、変化の様子を的確に捉え、問題を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>

## 【 備 考 】

本単元では、ある条件を設定して条件との違いを調べる思考法や、見当を付けて確かめる思考法について学習する。ここで扱う問題は、いわゆる鶴亀算と呼ばれるものであるが、解き方のみを強調するのではなく、「表を使って考えよう(1)」と同じように、数量の変化を表に表すことによって、きまりを見付けて問題を解く思考力が養えるように、単元構成や授業展開を工夫する必要がある。